

# JICA本邦研修で「スリランカから姫路へ」

～加古川水系流域治水プロジェクトの仕組みなどをオンラインで講義～

— 姫路河川国道事務所 —

## 【概要】

国際協力機構（JICA）が令和5年5月20日～6月2日の期間に実施する「スリランカ国流域戦略に基づく地方防災計画策定を通じた防災の主流化促進プロジェクト（流域戦略に基づく防災主流化研修）」の一環で、スリランカ民主社会主義共和国の災害管理局など職員12名を対象に、令和5年5月29日関西JICA研修センター等とオンライン形式で講義を行いました。

講義は、通訳の方を通して「日本の河川整備の法律（ルール）の概要」や、「河川改修の基本的な考え方」を前段で説明した後、「加古川水系の河川整備基本方針及び河川整備計画」の説明を行いました。

講義後の意見交換では、スリランカで懸念する「ケラニ川中流域での洪水被害などに対する流域での治水事業や環境問題など」を背景として、加古川での気候変動の影響に対する河川整備（上下流バランスに配慮した河川整備）や環境整備などの考え方に対して、特に関心の高い質問がありました。

## 【講義内容など】

- 日 時： 令和5年5月29日（月）15:30～17:15
- 形 式： オンライン形式
- 内 容：
  1. 日本の河川整備計画の概要
  2. 河川改修の基本的な考え方 など
  3. 加古川水系河川整備基本方針及び河川整備計画



上: オンライン講義の状況(関西JICA研修センターより)

2. (2) 気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について

○近年の水災害による甚大な被害を受けて、耐災能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える水防災政策の抜本的な再構築を一歩進め、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、流域治水への転換を推進し、防災・減災が定着する社会を目指す。

これまでの防災

流域治水を推進する引がけが発生することによって、社会全体で治水に転換し、水防災政策の抜本的な再構築を推進する。

(参考)ダム再生技術の海外展開

- 海外では、ダム等の水資源施設の老朽化対策が課題であり、施設、構材の更新等の需要大。
- 我が国には、既設ダムを運用しながら機能向上を図るダム再生(容量の拡大、目的別の容量振替、洪水調節能力の増強、長寿命化等)の実績があり、技術的な優位性あり。
- また、ダム等の維持管理・点検・修繕事業等のノウハウに強みがあるため、我が国のダム点検に関する技術の海外展開や、ダム点検等を通じて把握した相手国の治水、治水対策等の課題に関するダム再生事業等の案件形成を行う。

容量の拡大

事前放流による機能強化

別水容量を洪水調節に活用する事前放流等による機能強化

3. 加古川水系河川整備基本方針・河川整備計画

(1) ⑤流域治水の推進

加古川水系流域治水プロジェクト 【位置図】

上: 説明資料一部(研修生の配布教材は英語訳)

## 【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所  
 調査課 計画第一係  
 〒670-0947 姫路市北条1-250  
 TEL 079-282-8211

- ① ホームページ <https://www.kkr.mlit.go.jp/himeji/index.php>
- ② Twitter [https://twitter.com/mlit\\_himeji](https://twitter.com/mlit_himeji)

